

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
播	ハバン まく 人①		𠄎 𠄎	播			播 播		播 杜家立成
			𠄎						
撫	ブ なでる 人①		𠄎	撫			撫 撫 撫		撫 豊替指歸
			𠄎				撫 撫		
撲	ボク 常①		𠄎	撲			撲 撲 撲		撲 王勃詩序
			𠄎						
操	ソウ みさお あやつる 教6 常①		𠄎	操			操 操 操 操		操 瑠玉集
			𠄎				操		操 瑠玉集
擁	ヨウ 常①		𠄎	擁			擁 擁 擁 擁		擁 豊替指歸
			𠄎				擁 擁		
擬	ギ 常①		𠄎	擬			擬 擬 擬		擬 豊替指歸
			𠄎				擬		擬 風信帖
擦	サツ する ずれる 常①		𠄎						擦 風信帖
			𠄎						擦 風信帖

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
播	播	播				播					播 中国・香港
		𠄎									播 台湾
撫	撫	撫	撫			撫	撫				抚 撫 中国 台湾
		𠄎	撫								撫 香港
撲	撲	撲	撲	扑		撲	撲	撲			扑 撲 中国 台湾
											撲 香港
操	操	操	操	操		操	操	操	操		操 中国・香港
											操 台湾
擁	擁	擁	擁			擁	擁	擁			拥 擁 中国 台湾
											擁 香港
擬	擬	擬	擬			擬	擬	擬			拟 擬 中国 台湾
											擬 香港
擦	擦	擦	擦	擦		擦	擦	擦			擦 擦 中国 台湾
											擦 香港

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
擢	テキ タク ぬきんでる		擢	擢			擢擢	擢	元暦萬葉② 長壽急就章
擾	ジョウ みだれる わずらわしい		擾	擾			擾擾	擾	元暦萬葉② 巽替指歸
支	シ ささえる		支	支			支支	支	元暦萬葉② 節用 日本紀皇皇和歌 庭訓往来
改	カイ あらためる あらたまる		改	改			改改改	改	元暦萬葉② 節用 支3 坊っちゃん
攻	コウ せめる		攻	攻			攻攻	攻	元暦萬葉② 節用 支3 坊っちゃん
放	ホウ ほなす ほなつ ほなれる ほうる		放	放			放放放	放	元暦萬葉② 節用 支4 坊っちゃん
故	コ ゆえ		故	故			故故故故	故	元暦萬葉② 節用 支5 坊っちゃん 明治の漢字

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
擢		擢	擢									擢 擢 擢 中国 台湾 香港
擾		擾	擾				擾					扰 擾 中国 台湾
支		支	支	支			支	支	支	支	支	支 千祿(俗) 中・台・香
改		改	改	改			改	改	改	改	改	改 中国・台湾
攻		攻	攻	攻			攻	攻	攻	攻	攻	攻 漢・馬王堆 中・台・香
放		放	放	放			放	放	放	放	放	放 中国・台湾
故		故	故	故			故	故	故	故	故	故 中・台・香

【擢】JIS2004で例示字形が「擢」から「擢」に変更された。
 【支】咎なし点が付くことがある。千祿字書では咎なし点が付いた字体を〈俗〉としている。嵩山開母廟石闕銘は見た目は篆書だが後漢のものなのでここに配置した。本来の明朝体には筆抑えが付く。
 【改】五経文字では部首を「支」ではなく「攴」としている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
政	セイ ショウ まつりごと		政	政	政	政	政	政	政
教	キョウ おしえる おそわる		教	教	教	教	教	教	教
敗	ハイ やぶれる		敗	敗	敗	敗	敗	敗	敗
敢	カン あえて		敢	敢	敢	敢	敢	敢	敢

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
政	政	政	政	政			政	政	政	政	政	政
敏	敏	敏	敏	敏			敏	敏	敏	敏		敏
救	救	救	救	救			救	救	救	救	救	救
教	教	教	教	教			教	教	教	教	教	教
敗	敗	敗	敗	敗			敗	敗	敗	敗	敗	敗
敢	敢	敢	敢	敢			敢	敢	敢	敢	敢	敢

【救】等慈寺碑、王勃詩序、高陽院醉閑歌合⑩、弘道軒、漱石の「求」に点が無い。

【教】空海は聾聵指歸で2種類の「支」を書いている。漱石が原稿に草書を書いているのに驚いた。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期				
敬	ケイ うやまう		秦公鐘	石鼓文	馬王堆	史晨後碑	淳化閣帖	集字聖教序	高貞碑	孔子廟堂碑	五経・女部	豊替指歸	
			睡虎地秦簡	居延漢簡				敬		道因法師碑		豊替指歸	
			里耶秦簡										
			郭店楚簡										
散	サン ちる ちらす ちらかす ちらかる		金文	睡虎地秦簡	説文・肉部	銀雀山竹簡	武威漢簡	王獻之	得示帖	王興之墓誌	孫秋生造像	干祿字書	豊替指歸
			散氏盤	馬王堆	石門頌			散		王遷墓誌	皇甫誕碑	五経・女・説文	
								散		元珍墓誌	伊闕仏龕碑	五経・女・石経	
敦	トン あつい		睡虎地秦簡	説文・支部	敦煌漢簡	西狹頌	智永千字文	敦		孫遵淳因後記	樊興碑	五経・女部	王勃詩序
					居延漢簡	曹全碑		敦		鄭義下碑			
						張遷碑		敦		穆亮墓誌			
数	スウ スカ かず かぞえる		睡虎地秦簡	説文・支部	銀雀山竹簡	西狹頌	十七帖(三井本)	集字聖教序	元暉墓誌	蘇孝慈墓誌	干祿字書	豊替指歸	
					馬王堆	石門頌	十七帖(上野本)	数		水牛山巖若經碑	化度寺碑	豊替指歸	
							数			鄭義下碑	雁塔聖教序	豊替指歸	
							数			比丘尼羅漢造像誌	倪寬伝贊	豊替指歸	

【数】日本では偏を「米」と略すことがある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												敬
元暦萬葉④	源朝野原名朝	支9		ころ								中国・香港
												敬
元暦萬葉④	訓蒙天地弁	古文		ころ								台湾
												散
粘葉本朗詠	節用	支8		ころ	明治の漢字							干祿(俗) 中国・香港
												散
粘葉本朗詠	我津衛	古文		ころ								明治の漢字・標榜 台湾
												敦
元暦萬葉④		支8										中国・台湾
												敦
												香港
												数
元暦萬葉①	節用	支11		ころ	明治の漢字							干祿(俗) 中国
												数
元暦萬葉④				ころ	明治の漢字							台湾
												数
元暦萬葉②												陸軍 香港
												数
元暦萬葉④												陸軍

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
敵	テキ かたき		敵	敵	敵		敵	敵	敵
				敵	敵		敵	敵	
敷	フシク		敷	敷	敷		敷	敷	敷
				敷	敷		敷	敷	
整	セイ ととのえる ととのう		整	整	整		整	整	整
				整	整		整	整	
文	ブン モン ふみ	文	文	文	文		文	文	文
		文	文	文	文		文	文	
				文	文		文	文	
				文	文		文	文	
齊	セイ	齊	齊	齊	齊		齊	齊	齊
				齊	齊		齊	齊	
齊	人②			齊	齊		齊	齊	
齊	④			齊	齊		齊	齊	
齊				齊	齊		齊	齊	

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
敵	敵	敵	敵	敵			敵	敵	敵	敵	敵	敵
	敵											敵
	敵											敵
敷	敷	敷	敷	敷			敷	敷	敷	敷		敷
												敷
												敷
整	整	整	整	整			整	整	整	整	整	整
												整
												整
文	文	文	文	文			文	文	文	文		文
												文
												文
												文
齊	齊	齊	齊	齊			齊	齊	齊			齊
												齊
												齊
												齊
齊	齊											齊
												齊
												齊
												齊

【敵】漱石は旁を「女」ではなく「支」を書いている。日本では旁に「欠」を用いることがある。

※「支」が変化した「女」と「文」が変化した「女」は字体が衝突する。

【齊】当用漢字表には含まれず1981年に常用漢字表に加えら

れた。「齊」と「齊」は異体字。「齋」と「齋」は異体字。「齋」「齋」と「齋」は別字種。